

しんぶん
赤旗

日刊 ●月 3497円
日曜版 ●月 930円

南地域後援会は本町・寿・緑・若松・栄・白山・船戸・新田がエリア

連絡をいただければ「しんぶん赤旗」の見本を届けます



しらかば

日本共産党我孫子南地域後援会
発行責任者 木村 文次

2024年新春懇談会 船橋議員初めての市政報告

2月17日。けやきプラザ8階和室にて、船橋優議員出席のもとで2024年新春懇談会が開かれました。



第一部は船橋議員からの12月議会報告。船橋議員にとっては初めての議会でしたが、質問の時間配分がわからず、この点では今後気をつけて時間を使いたいと述べました。しらかば2月号の議会報告傍聴記でもお知らせしましたが、船橋議員は①子どもたちの通学路に安全ポール等の設置、②平和宣言都市として原爆投下日に防災無線等での黙とうの呼びかけ、③選挙の投票率アップのため、身体の不自由な方や高齢者のために投票所を増やすこと、について質問しました。

また岩井議員が質問した地球温暖化防止対策と手賀沼放射能汚染についての報告もあり、特に放射能汚染で手賀沼産の魚が販売できない現状に、「私も我孫子のうなぎが食べたい」と率直な気持ちを言われました。市からの回答では、安全ポール設置以外は費用や手間の問題で前向きな回答が得られず消極的でした。その他山階鳥類研究所について、我孫子市が誇れる施設であるにもかかわらず一般には知られていない現状に、市としてもっとPRの努力が必要との認識を示されました。

参加者からは、野村前議員の努力で実現した我孫子駅エレベーター設置を例に、要求実現のための署名活動の提案と、市民にとっての身近な問題であれば真剣に署名してくれるのでは、との意見がありました。また議会で欠席と遅刻の議員がいたことについて、議員は市民の代表でもあることから、議会だよりでも欠席・遅刻等について開示すべきとの厳しい意見もありました。

日本共産党我孫子市議団のホームページのサイトは <https://jcp-abiko.com/> です。スマホのQRコードはこちらから。→

お花見のお知らせ

- ▼場所 手賀沼公園 (雨天中止)
- ▼日時 3月31日(日)11:00から 公園正面入口右手
- ▼会費 500円
- ▼昼食 各自持参してください。

主催 日本共産党我孫子南地域後援会

自然災害はその被害を忘れたときに再び起こるものだという戒め。

科学者で随筆家の寺田寅彦の言葉です。正月に発生した能登半島地震。13年前の3月11日には東日本大震災が発生しました。さらにその16年前の1月17日には阪神・淡路大震災が発生しました。寺田が伝えたかったこと。自然災害は定期的に起きるもの。それは文明が進むほど損害の程度も大きくなる。しかし人々は昔のころなど覚えていられない。だからこそ災害に対する防御策を講じていなければならない。一向に進んでいない。結局は人間がもっと過去の記録を忘れないように努力するより外にはありえない。

能登半島地震のニュースで、過去の地震の教訓が活かされてないとの解説が耳に残りました。

(緑工)

お悔やみ

しらかば後援会の役員を務めていただいている加地清秀さんが2月12日急逝されました。加地さんには「しらかば」会計担当の他、多くの原稿を投稿していただき支えていただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

オオバン

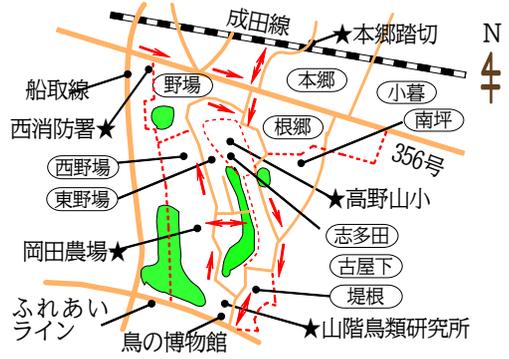
1月に行われた日本共産党第29回大会で、田村智子新委員長が誕生しました▼話は変わりますが、一昨年「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯」という映画が公開されました▼治安維持法違反で捕まり、24歳で生涯を閉じた伊藤千代子の話です。我孫子では、けやきプラザで上映されました▼伊藤千代子は22歳の時、長野県にある全国第6位の釜数を誇る製糸会社、山一林組の労働争議の支援をしました▼山一林組の工場は1906年〜1938年まで我孫子にもありました。石橋製糸に引き継がれ1985年まで操業していました▼その跡地は現在、我孫子駅南口のイトーヨーカドーになっています。敷地内には番屋塔があり、隣の我孫子駅南口東公園にある史跡説明板には当時のことが書かれています▼長野県出身の田村智子さんの母親の旧姓は林で、山一林組の娘でした▼一昨年、田村智子さんと話す機会があり、我孫子に山一林組の工場があったことを話しました▼田村さんは、関東地方にも山一林組の工場があったことを初めて知ったと驚いていました▼13年前の市議選出馬式にも応援に駆けつけてくれました▼我孫子とも関わりのある田村智子新委員長。指導体制の幅が広がり、新しい風が吹くことを期待します。

(R)

我孫子古道巡り

その69

高野山から手賀沼へ①



成田線・本郷踏切

今回は、前回巡った「大我孫子」の東隣の「高野山」を巡ります。356号の「西消防署」の東が高野山です。明治13年の地図では、街道から手賀沼に下りる道がいくつかあり、この道を何回か巡ります。

356号の北側は「字本郷」、南側は「字根郷」で高野山村の中心地でした。「から揚げ専門店」の北に入った成田線踏切に



東野場の緑地

は「本郷踏切」と字名がついています。字本郷には「雷社」と「庚申社」がありました。明治40年(1907)に高野山香取神社に合祀されました。

向かい側に「高野山小入口」の看板がありこの道を下ると、昭和50年に一小の分校として開校した「高野山小」です。ここは「字志多田」で、東に迂回し坂を南に下り「字古屋下」「字堤根」と東西の丘に挟まれた谷津が続ぎ、現在は宅地



高野山小

「鳥の博物館」を下ると早稲田江間の船着場です。戻り、西側の急坂を上ると「岡田農場」です。西は「西野場」、東は「東野場」

の緑地が広がります。東側に字古屋下に下りる道があり、その途中の丘に沿った道は旧道と思われる。

参考文献「我孫子の地名と歴史」

栄関口



岡田農場と西野場の緑地

「鳥の博物館」を下ると早稲田江間の船着場です。戻り、西側の急坂を上ると「岡田農場」です。西は「西野場」、東は「東野場」



山階鳥類研究所

となつていますが、以前は水田が広がっていたと思われ。山階鳥類研究所

しらかば文芸欄

18 川柳・寿・佐藤権兵衛



処理水の中身はしらぬ海の青

生きるため仮面着けたりはすしたり

裏金に腹を立てる納税者

プーチンは悲しからずや侵略者

常磐線あれこれ 37

3月16日はJRダイヤ改正。今年には北陸新幹線金沢ー敦賀間開業、山形新幹線新型車両投入。その他房総特急の利便性向上など、特急列車の改正が中心です。

「特別急行」を略した呼び名ですが、現在、JRの定期列車に「急行」は存在しません。しかし1960年代までは、特急は文字通り特別な列車であり、庶民が乗る優等列車は急行が一般的でした。

3ドア赤電(401系)は急行としても活躍しました。赤電は取手以北の中距離普通列車用車両ですから、やむを得ず1967年10月

から休日下り1本、そして1968年10月から1978年10月まで、臨時列車と定期列車1往復に、それぞれ3ドア赤電(401系)を使用しました。

当時の国鉄は、普通(首都圏通勤型・中距離型)・急行・特急と、列車の種類ごとに専用車両を走らせていました。そして急行は2ドア全席クロスシート・全車両冷房(60年後半から)に比べて1ランク上のものだったので乗り心地も違いました。

しかし本来の急行車両に比べて、乗り心地の悪さ、車内騒音の大きさ、ドアからの隙間風、座席が小さくクロスシートが少ない(3ドアとドア両側がロングシートで、元々座席数が少ない)、トイレが少ない、夏は冷房車が来る確率が低い(当時)など、利用客の多い首都圏での運転であったことから評判が悪く「遜色急行」とも揶揄された急行列車でした。

(緑 竹内)



「パンジー」 若松・高橋祥子

